

織物企画設計の強い味方「How to 織物創作」を構築

デザイン性の高い織物を作るには、織物企画者が様々なトレンド情報を収集し、織物の外観をイメージして、織物企画設計を行います。それには豊かな経験を元にした多大な労力を必要とします。

当研究所尾張繊維技術センターは、代表的な外観イメージの織物について、作り方を分かりやすく解説した織物企画支援ツール「How to 織物創作」を構築しました。

「How to 織物創作」は、次の2つから構成されています。

「マニュアルブック」(図1)

代表的な外観イメージの織物の作り方について、「糸」「織」「加工」の技術区分ごとにわかりやすく本にまとめました。

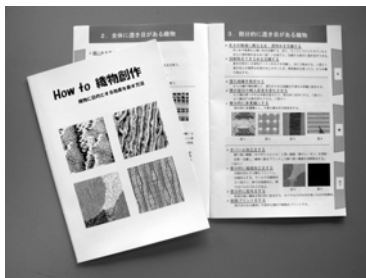


図1 マニュアルブック

「データベース」(図2)

「マニュアルブック」の内容とともに、過去の類似な織物見本が検索できます。

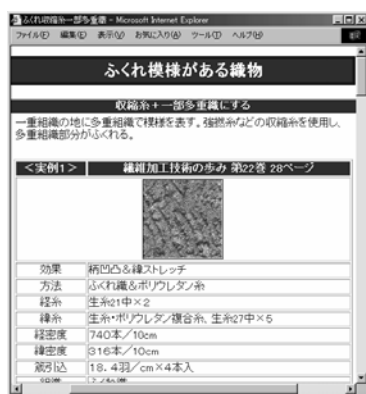


図2 データベースの画面

「マニュアルブック」は、A5版カラー16ページのポケットサイズです。

「毛羽の少ない織物」「ループがある織物」「チリメン状のシボがある織物」など26の特徴的な

外観を持つ織物の製造方法について、「糸」「織」「加工」の技術区分にて、94項目をわかりやすく技術解説しました。また、「糸」「織」「加工」はインデックスをつけ、「糸」で高いデザイン性のある織物を作るにはどうしたらいいかなど、技術分類から織物企画を検討することも可能になっています。

「データベース」は「マニュアルブック」の内容がパソコン上で確認できます。

さらに、「落ち着いた」「きれいな」「光沢のある」「ざらざらした」など、過去に流行した90語のトレンドキーワードが収集され、これらのトレンドキーワードにあった織物を検索することが可能です(図3)。そして、検索結果を実物の織物で当センターにて閲覧することもできます。

なお、「データベース」は、ウェブ上では公開されておりませんので、検索結果の実物の織物をご覧いただくためにも、当センター内のパソコンでご利用ください。

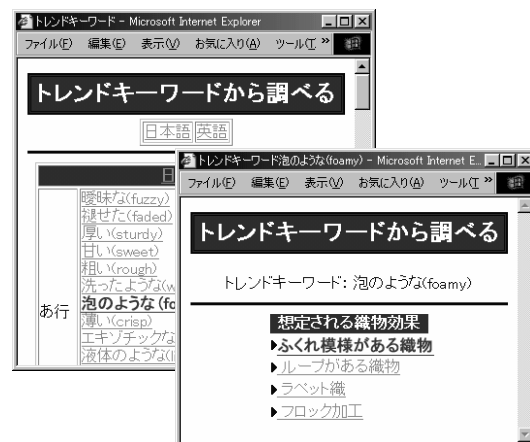


図3 トrendキーワード情報の画面

国内繊維産業が生き残るためには、世界の最新トレンド情報をいち早くキャッチし、デザイン性の高い織物を提供することが求められています。それには織物企画者の力量がキーポイントであり、これまで個人の知見やノウハウに任されていた分野を活字化及びデジタル化を行いました。顕在化できたものは、熟練企画者が持つ豊かな知識の一部でしかありませんが、新人研修や関連業種での参考書として多方面から注目されています。



尾張繊維技術センター 鹿野 剛 (tsuyoshi_shikano@pref.aichi.lg.jp)

研究テーマ：織物・ニットのオリジナル化技術の開発

指導分野：産業資材、製織技術